

## 平成26年度川崎市地域自立支援協議会第3回全体会議 摘録

日時：平成27年3月19日（木）13：30～16：30

場所：川崎市役所第4庁舎4階第4・5会議室

出席者：赤塚会長、住舎副会長、荒木委員、大場委員、北島委員、加藤委員、高橋委員、西巻委員  
増田委員、渡邊委員、船井委員 ※大窪委員 佐久間委員 欠席

事務局：阿部、小川、栗野、野原、牧田、湊上、松澤、阿久津、川上、笹島、佐藤、中村、中野、林田

行政：障害計画課川島課長、こども福祉課北谷課長

傍聴者：3名

### 1 開会あいさつ

（川島課長より資料確認及び開会のあいさつ）

（赤塚会長よりあいさつ）

### 2 行政報告

（川島課長より資料1、次の資料に基づき説明。）

「第4次かわさきノーマライゼーションプラン策定に関する重要課題について」

「自立支援協議会意見具申の反映箇所について」

赤塚会長	今の御説明、第4次ノーマライゼーションプランについての施策の方向性について、地域自立支援協議会の意見具申の意見具申を反映した内容ということでした。具体的な施策の実施に向けて、邪魔をしないような書き方をしているということで、施策については今後調査検討して実施されていく、と考えてよろしいか。委員の皆様から質問はあるか。
委員	入浴の件で拡充したものがあるという話だが、訪問入浴の回数が増えたことか。
事務局	そうである。
赤塚会長	このノーマライゼーションプランの策定については、策定委員会と障害者施策審議会に自立支援協議会を代表として参加してきた。その都度、意見を申し上げて反映して頂いたが、2月16日、最後の障害者施策審議会で発言したことを簡単に申し上げておきたい。 1つ目に53ページで、相談支援体制と地域リハビリテーションセンターの構想が述べられている。そこはかなり整理されているが、実際の相談支援体制・相談支援の流れというものがどうなっていくのかまだ見えにくいので検討してほしいことを伝えた。 2つ目は198ページ計画の推進体制について、自立支援協議会の役割があるのでご覧ください。同時に今回のプランにおいては地域包括ケアシステムの構築の中で川崎市はモデル的なものをつくる、高齢者だけではなく子ども・障害を含んで作るということは何度もお聞きした。また各区の報告もこの中にあるので、今後こういった形でからんでいくのか示して頂きたいことを申し上げた。それから地域包括ケアシステムとの関係では、例えば、町づくりなどは皆さんと情報を共有するもので、そういうところで障害の

川島課長	<p>方がリードしている、どんどん発言していくことが大事ではないかということを上上げた。</p> <p>その次に、就労に関して離職者についてきちんと把握してほしいということを上上げて、これについては色々新しい事業ができているが事業について、どうしてこれやるのかという根拠を明らかにしてほしい、離職者については数字がないようなので調査を行うよう審議会の会長もおっしゃっていた。</p> <p>16時以降に関しては、課長からお話があったが、今回もこの中にも入れられていない。協議会から出されてはいるが、正式な答えはなく、審議会当日に、今、話があったようなことを聞いた。是非これも進めて頂きたい。</p> <p>保育所等訪問支援というこどもの支援について、4つの療育センターが民間で運営されているが、その中で今後どのようなプランかということが書かれていないのでこれについて御検討くださいということもお伝えした。内容的にはそのようなことだが、プランができてこれでおしまいということではなく、その中身を精査していかなければいけないし、地域自立支援協議会としても意見具申としてあげたものは根拠があって言っていることなので是非今後この実施の中で、協議会として市に異論をお持ちすることもあると思うが、まだまだはっきり見えていない部分もあるのでそれについてはまたこういう場で説明などしていただけるように検討いただければと思う。皆様それでよろしいか。</p> <p>本来であれば最後に部長の萩原が閉会の挨拶を予定していたが、午前午後と2か所新通所施設内覧会の出席のため、参加が叶わなかった。お詫び申し上げます。私の方から御礼を述べさせていただきたい。引き続き、来年度以降に向けて、差別解消法の施行を目指して準備をしていくが、地域自立支援協議会で担っていただく役割はやはりあると思っている。相談させていただきながら今後の施策にもつなげていきたいと考えているので、引き続き今後もよろしくお願ひしたい。</p>
------	--

### 3 各区地域自立支援協議会について

(資料3に基づき川崎区より順番に説明。)

#### 各区の協議会の取り組みについて質問や感想

委員          事務局	<p>川崎区の発表の中で、見学に来ている田島支援学校の生徒にインタビューを行ったというのは前回の連絡会議でも聞いている。良い試みだと感じた。実際には、生徒会にどのようなことをインタビューしたのか、例えば当事者参加や当事者理解について、今後どのようにつながると感じたのか聞きたい。</p> <p>事前に生徒会へどのようなことが聞きたいか協議会の構成員にアンケートを取り、その内容を生徒会へ伝え、当日回答を準備している状態で行った。在学中にどんなことをして楽しんできたか、卒業後の進路や不安についてやり取りをする中では、はっきりと受け答えができて教育がしっかりされているという話が構成員の中からの意見。そのやり取りを通して卒業後困った時には、協議会に相談してくれれば繋がりの中で生活に困</p>
---	---

委員	<p>らないようサポートができるということを伝えられたと思う。</p> <p>幸区の自立支援協議会で、昨年度の親父の会立ち上げだが、今年はフロンターレとタイアップしてすごいなと思いながら聞かせて頂いた。お父さん同士の話し合いの場を設定し色々な思いについて、語って頂いたとのことだが、どのような内容だったのかお聞かせいただければと思う。</p>
事務局	<p>事前にお父さん同士の話し合いがあるということを伝えていなかったなので、イベントが始まってからお父さんたちお話ししましょうというところからスタートした。深いところまでの話はできなかったが、現在お子さんと暮らしている中で悩み事や将来への思いをそれぞれお話して頂いた。そこで、それに対してどうしていきましょうということではなかったが、お父さんの思いを伝えてもらう場とした。次年度、これをどうつなげていくかは協議会としての検討課題。お子さんもこういう広い所で運動する機会がないということを知ったので、こういうところも繋げていきつつ、お父さんの思いも含めてどうしていくか委員会の方でも検討している。次年度、新たな形で出来れば良いと思っている。</p>
赤塚会長	<p>それぞれ魅力的な取り組みをしてもっとお話しをお聞きしたいところだが、今年度の区の取組みの中から次年度に向けて色々検討しているようなので全体会議等で報告いただきたい。</p>

【休憩】

#### 4 事務局ワーキングについて

(事務局牧田氏より〈資料3-1〉「広報ワーキング」に基づいて説明。)

(事務局野村氏住舎氏より〈資料3-2、3〉「課題整理ワーキング」「第4次かわさきノーマライゼーションプラン策定に関する重要課題について 意見具申ワーキング」に基づき説明。)

(事務局小川氏より〈資料3-4〉「連絡会議ワーキング」に基づき説明。)

#### 事務局ワーキングの取り組みについて質問や感想

##### (広報ワーキングより説明)

赤塚会長	<p>80 ページにあるようなリーフレット広報誌ホームページその他ということで順次に進めていこうということ。そういうことを各区が確認しながら進めたいということで、ワーキングというより連絡会や情報交換会そんな形になるかなという話だった。他にこんなことをやってみてはどうかなどあるか。80 ページの表が埋まりそれが有効に活用されるようにという事か。</p>
------	--

##### (課題整理ワーキングより説明)

赤塚会長	<p>前半は意見具申ワーキングについての説明で、前回の全体会議の時に申し上げたかと思うが摘録に記載がなかったので確認しておきたい。第一回の時に意見具申内容について</p>
------	---

	<p>て皆さんから意見をもらった。皆さんの意見を取り入れて修正し、市に提出したものが今回の資料 1-1 と 2、時間のある時に改めてみて頂ければと思う。この意見具申ワーキングは先ほど説明があったように各区の色んな多くの方々の参加を経て当事者の方たちにも御意見をいただいて、作成された。それから今年度のワーキングのまとめについての報告だが、非常に重要なことが並んでいる。次年度へ向けてというところでは、これらの課題を共有するということと、区地域自立支援協議会と連携を図りながら課題解決改善へ向けて取り組んでいくと書いてあり、挙がってきたものについて、解決の方向へ向けて取り組みましようということ。色々ありますではなくて今年はず意見具申ということで出したが、この次に挙がっているこれらについてはどうしたら解決できるのかという事を皆さんと協議していきたいということによろしいか。委員の皆様の見解を頂きたい。次年度もこの取組みを続け、ワーキングを継続するという事か。</p>
委員	<p>災害の今後の取組みというところで、各区地域自立支援協議会で取り組みだが、川崎区に住んでいて、まず挙がるのが津波。津波に対する不安感は非常に大きく、市で出しているマップによると、市役所辺りまで津波が来るとなっている。お子さんが海側の方に就労している親御さんが、避難場所がないと皆さん不安を口にしていられちゃう。各企業取り組んでいるとは思いますが、障害のある方がどのように避難すればよいのか各区のニーズに応じた対応を考えて頂けると非常にありがたい。</p>
委員	<p>非常に多岐にわたっている内容でどれをとっても簡単ではないといった実感。引き続き頑張りたい内容ではあるが、どれから取り組んだら良いのか何が重要なのか、という整理をされていくと良い。それに合わせて我々も一部連携する部分もあるので、連携させていただければありがたい。</p>
赤塚会長 委員	<p>優先順位の問題や、取り組み方によって取りまとめが出来るかもしれない。 災害の話が出ていたが、川崎市がどう考えて末端まで協力体制ができていないところを今後どう進めていくのか、区ごとでは動きが出てきているが、市の動きがよく見えなくて、全体的には危機管理室が統括しながら、障害だったら障害計画課でやる中で、地域自立支援協議会での取組みがどう吸い上げられていくのか、今後どうなるのか、あるいはどうしていかなければいけないのか、せっかく積み重ねている中で待っているだけではなく一年ごとですがノーマライゼーションの提言と同じように災害についても、毎年市に挙げていかないと動きが遅いような気がするのを助けるためにも現実の検討内容を伝えていければ良い。</p>
赤塚会長	<p>もっと具体的にということ。それからこの後、連絡会議ワーキングの報告があるが、第3回連絡会議ワーキングでは、この問題を取り上げているのでその話も聞いていただけ。</p>
委員	<p>たくさんあるが、17番の地域活動支援センターの在り方の内容だけが狭い中の事を言っているようでごく偏っているように感じる。日中活動の場ということなので、地域活動支援センターだけではない色々な施設があると思うが、なぜこういう風に限定したのか。</p>
委員	<p>難しい。限定と出てきた。各区の構成員から地域活動支援センターという名称で課題</p>

赤塚会長	<p>が出てきたのでこの名前がある。</p> <p>これに代表される付随した様々な課題がある。そういうこともきちんと見渡して課題としてまとめたらどうかという意見ではないか。精神障害等がある方への支援という、これはすごく大きい。今回出てきたものをまとめてくれている。それをもう一度私達目線で考えたらどうなのか、あるいは当事者目線でまとめるとどうなのかということ、これを協議して整理すると川崎市としての課題が見えてくるし、皆で共有できる、市にも提案しやすいということ。</p>
委員	<p>地域活動支援センターについては、私は代表をしているので内容を見てどきっとしていたところ。ハードルが高いということもあるが、行政のほうから縛り的なものもあり、これに対してそれを乗り越えると加算がある状況がある。それを乗り越えるために皆さんに少しハードルを高くしてなるべく来て下さいということになり、それがイコールゆるい場所ではなくなっている事実がある。その辺りはご理解いただきたい。</p> <p>あと災害のところ障害に対する理解とあるが、これも全て通じている問題。私が最初にこの自立支援協議会に関わらせて頂いた時、川崎区の災害についてであった。現在これまでの経過を見ても、川崎区での当事者参加が極めて少ないということもこれまで何度も言ってきているがこの問題をクリアするためにはもっと多くの当事者に関わっていただく必要がある。市政だよりや川崎区の便りなど色々あるので、今度はそういうところに出して、もっと参加したいという方もいると思うので、そういう方をなるべく多く集めていっていただきたい。</p>
赤塚会長	<p>もっと多くの方の参加を得て内容を深めていくということも大事。意見具申の時にワーキングに色んな方に参加していただいたように、あるいは専門部会ということになればそれはそれで様々な方にご参加いただくということになる。それにつけてもいっぺんにというのは出来ない相談なのでやはりどこからはじめたらよいか。どこどこが関係しているのか、こちらを協議するとこちらも当然引き込まれていくというのがあるのかなと思った。そんな視点も入れて、進めていただけたら良い。</p>

**(連絡会議ワーキングより説明)**

赤塚会長	<p>テーマ設定と参加のしやすい会場確保とか広報、さまざまな課題はあるが来年度あるべき姿を検討していきたい。年3回の企画は大変だったとあるがこれは行うのか。</p>
事務局	<p>1回は各区の取組み発表で開催。その他は、課題整理ワーキングから出されたものの中から、テーマ設定となるが、それが1つなのか2つなのか、これから検討であるが、2、3回の実施は必要かと考えている。</p>
赤塚会長	<p>名称はあり方の中で考えればよいということ。連絡会議ワーキングは継続していくのか。</p>

**5 専門部会について**

(大場委員より資料4-1に基づき説明。)

(船井委員より資料4-2に基づき説明。)

(西巻委員より資料4-3に基づき説明。)

**専門部会の取り組みについて質問や感想**

**(研修部会より説明)**

赤塚会長	104 ページ平成 26 年度の取り組みの最初のところに、他都市の人材育成ビジョンとあり、こういうものを集めて検討した。研修部会も人材育成という視点で、最初は目標などが立てられていたが委員の中で話合った結果 107 ページの取り組み内容を見て頂くと、私達はどんなことをやった方が良いのか実際の相談支援をやっている方達の思いなども含めた意見からまとめた内容に取り組んだということ。さらに専門委員である全体会議メンバーにプラスもう一人色々ご意見を頂いたりしてこれだけの材料が集まってきた。だいたい形にはなってきたが、専門委員という当事者の方あるいはご家族の方のご意見をもう一度ここに入れた時にどうなるか、この文言で良いのかということを検討しながら、来年度の一回目の全体会議でお示ししたい。
委員	感想になるが、一つ具体的なことで相談支援研修が3月ギリギリな時期で、内容が濃くてとても参加したいが、内容の濃さを消化できないという時期だったのがとても残念だと思った。感想になるが、一つ具体的なことで相談支援研修が3月ギリギリな時期で、内容が濃くてとても参加したいが、内容の濃さを消化できないという時期だったのがとても残念である。あとはこういう相談支援従事者をどう目指すべきかという研修部会で考えていくのがとても面白いなと思っており、勉強になる。忙しい中で、立ち返れるものを考えていくのは必要であり、良いことだと思う。
赤塚会長	人材育成ビジョン的なものはいくつもあって、実際川崎市でこういう仕事をしていく中で何が大事なんだろう、何を大事にしてきたらどうかそれを皆で共有しなければいけない、その為の研修であるということだからかなりオリジナルな研修ということを念頭に置いている。ただ皆忙しくて参加できないのでは困るからそれについても考えることが必要。

**(相談支援部会より説明)**

赤塚会長	二つ取り組みがあったが、一つは相談支援事業の質の評価のことでこれについては評価項目を作成した。自己評価について、実施要領ガイドブック第三者評価そういうものから抜き出してきて作ったということで、来年度プレ実施をして内容を精査していくということ。相談支援ガイドブックについては、アンケート調査をして比較的好評だが、アンケート回収率があまり良くなかった。それについては、もっと周知と活用を考えていく必要があり、このガイドブックをどう使うか、紹介解説を来年度行っていきたいということか。
北島委員	評価実施シートはどのくらいの期間で評価することを考えているのか。例えば一年など。
委員	今、話があったように、具体的にどのくらいの頻度でという使い方の問題だが、まず

赤塚会長	<p>それも含め、まずプレ実施をして、その間にその結果を本実施でどう生かしていくかも並行して考えていくというのが、来年度へかけての検討項目となっている。今月の下旬にもう一度相談支援部会があるので、今の意見を検討課題として持ち帰って話し合いたい。</p> <p>私の方から、忘れないうちに申し上げておきたい。改正が必要な部分が出てきた場合は、それに対してどうしたのかということの評価項目についても考えてほしい。</p>
------	--

**(こども部会から説明)**

赤塚会長	<p>区の地域自立支援協議会と川崎市への提案として最終的にまとまっているが、区の地域自立支援協議会への提案というのは事務局会議に持ち帰っていただき、そこで検討していただくということによろしいか。各区が足並みを揃えてこれを行っていただきたい。</p> <p>それから市への提案だが、このままこども部会からの提案として出すか、川崎市地域自立支援協議会と併記して出すか、それとも市の自立支援協議会として出すかというのがある。その前にノーマライゼーションプランの冊子をご確認いただきたいが、69 ページ地域療育センターの整備と充実とあるが、これは川崎市の地域療育センター4 か所これは児童発達相談支援センターの機能を有する施設で、地域における生活充実に向けて相談支援を基軸として各種サービスの利用支援を行うと共にと書いてある。療育センターというのは発達支援もするけれども、生活支援もする、当然その中には相談支援もあるわけでそれが基軸としてという書き方をしている。その上の総合的な相談窓口機能の充実 54 ページに戻ると、各区保健福祉センターでの相談、障害者相談支援センターでの相談とすでにあってこれを推進していきますとある。川崎市が作ってきた相談支援センターというのは当然このことも行う前提に作っている。それに地域療育センター計画のところもさらに検討し展開していく、そこと連携する等でかなりのことができるはずだが、現実それができていないのでこういう様な提案があったということ。これも踏まえてどうするかを考えていただきたい。</p> <p>こども部会からの提案には、各相談支援センターに障害児の相談支援専門員を配置する、あるいは補助金加配について挙がっている。今の相談支援センターの体制の中で出来ないとしたら正に提出し、今は難病も入っているのが対象になってくる。特に基幹相談支援センターが地域におけるこういった相談の一番重要な窓口で、そこにさらに言わなければいけないだろうかということについて、こども部会では実体験からこういう提案が出てきた。私がアドバイザーとして出席した時にもこういう話がたくさん出ていた。今のままではとても不安だ、先に進めないと言っている。見込まれる効果のところの①療育センターにおける相談支援機能の専門性が図られるというところ、これは何なのかなとよく理解できないが、これはどういうことか。</p>
委員	<p>議論の中で療育センターの方もいたが、特にこの3年間計画相談の件数に追われる、再編の忙しさもあったと思うが、そういった計画相談とかサービス理論についての支援に追われて本来の療育相談だとか一般的な生活相談に力を注ぎ切れていないという現状があり、もう少し身近なところで相談を受けた上で、療育センターの力を発揮できると</p>

赤塚会長	<p>ころに療育センターの役割を担ってもらおうという形ができればいいのではという話があった。</p> <p>もうひとつは、療育センターは独立型の相談支援センターになっていない、療育センターに含まれているような相談支援センターの役割になっているので、地域相談支援センターのように外に出なくては本来の仕事が難しいということを療育センター話だった。障害児の担当とすれば、独立できる専門性が図られるということだった。</p> <p>療育センターの今後の展開についてここにこう書かれているということは、当然今は計画相談の事に追われているかもしれないけど、生活相談を担うと書いてある。時限的なものとして、そういうことを考えてほしいという言い方もある。いずれにしても時間が十分ないのでこれをどうするか非常に難しいが、こども部会としてこれを市に出すというのは良い。市の地域自立支援協議会として、これを出すとすると、時間をかけて協議しないとならない。特にノーマライゼーションプランとの関係でどうなのか、もう少しばらくの間はこれは必要だとか、もう少しこちらの提案としても考えなくてはいけないことがあると思う。委員の皆様はいかがか。まだ来年度の事もあるのでもう少し時間をいただかなければいけない。これについて議論をはじめるとなかなか終わらないと思うので私の提案としては、こども部会からの意見として市の方に提出していただく、市協議会としては今後の協議事項とすることによるしいか。</p>
------	---

## 6 平成27年度の川崎市地域自立支援協議会について

(事務局淵上氏、野原氏、阿久津氏より〈資料5-1〉に基づき説明。)

赤塚会長	<p>事務局からの提案、川崎市地域自立支援協議会をどうしていくかという非常に重要なことについて委員の皆様は御意見を伺いたい。</p>
事務局	<p>1番については、事務局で検討していく、各区から課題を抽出する方法、1年とあるが、次回の全体会議というと夏前になる。それまでにこの確立を図りたいということ、それはよろしいか。2番目のシステム作りについて、ここに書いてあるものを見ると区の協議会がまずベースにある、これは常々川崎市の地域自立支援協議会が大事にしてきたこと。次に当事者参加について、今までとどこが変わっているのかという感じもあるが、変えたわけじゃないが、この事をもっとシステムとして分かりやすくすることか。もっと考えていきシステムを作るという事だが、これについて、皆さまから御意見を頂きたい。</p> <p>もう少し補足させて頂きたい。区の協議会の中で、市に課題を挙げたが全然返事が返ってこないという意見はとても多い。もう少しレスポンス良く区の中で挙げてきた課題を解決していくとするならば、区の動きというのはとても重要だと考えている。区がもう少し課題を把握し、解決していくという動きをもっと評価していく必要があると考えている。区が解決していけるよう市の協議会がバックアップする体制を作っていきたい。課題の流れも一方通行ではなく、市からも区へ意見を下していく動きがはっきり出るようにした方が良く考える。</p>
赤塚会長	<p>先ほど、ワーキングからの報告で、色々課題が出てきたものをきちんと実施できる方</p>

事務局	<p>向で考えていきたいと思いますということが課題整理ワーキングの来年度の課題だった。それとどう違うのか？ちゃんと説明してくれればみなさん納得する、私も納得する。今までとどこが違うのか。大事にやっていきたいと思いますと言ったが、各区の協議会の報告を聞いたがみんなバラバラだった。でも、それぞれで一生懸命やっている。そのボトムを市の地域自立支援協議会に出してきている。挙がってきた課題は課題整理ワーキングで考えましようということ。その課題整理の仕方は1のところまでには揃えると言っている。</p> <p>課題整理ワーキングでもこれから先々のこと挙がってきた課題について整理して出していくと話しがあった。ただその形は今まではっきりしていなかった、曖昧としていたところがあった。区に再検討します、と返したり、区同士でも1回集まってもらったり、これまでもできているところもあるが…。</p>
赤塚会長	<p>1つは各区の地域自立支援協議会のさまざまな課題の取り組み方に問題があったので、それがより実施の方向に取り組みますとそういうことか。それが、システムなのか。取り組み方じゃないのか。</p>
事務局	<p>事務局会議の中でも、各基幹の皆さんを中心に実際協議会を運営されていて、感じている部分や課題になっている部分をアンケートという形を取って、色々な声をいただいております。その中で、例えば市協議会と区協議会の連動ができていないということを実戦の中で率直に感じる部分や、色々な協議会の会議が行われているが、そこでも課題とある。協議会の原点である課題が中心にはなるが、解決に向けた協議会の目的たる部分の連動性という部分が十分に機能していないのではないかと、やっている立場のみなさんの中に疑問が出てきているというところ。それを解決していくということがシステム作りという表現になっている。</p>
赤塚会長	<p>時間もないので、システムということのイメージを教えてください。どのようなイメージでシステムという表現を使っているのか。申し訳ないが、私、事務局会議のこういう部分、来年度については、今年の1月以降全部外れている。そのため繰り返し聞いている。皆さんで検討するということなので、初めて今回見せていただいている。ちゃんとイメージがあればいい。色々モヤモヤしている。一年間のシステム作りと挙げるだけ挙げられても何をやっているのか。しかも課題整理ワーキングであれだけの作業をキチンとやっている。それがあったので余計お聞きしている。今までやろうと思ったことができなかったことをやります、という事であればよく分かる。当事者の生の声と合わせて作り上げていくとあるが、これについて当事者としてどんな感想をお持ちになるか？北島委員、もし御意見あったら、いただけるか。</p>
委員	<p>これまでもシンポジウムなどで生の当事者の声を上げてきている。現在の区の地域自立支援協議会でも人数に隔たりはあるが、それぞれにキチンと声を挙げてきている。今度も引き続きという形か。</p>
事務局	<p>ここはそういう意味で書かせてもらった。相談支援から挙がってくるものも大事と思っているが、そればかり書いていると相談支援ばかりという表現に見えてしまう。</p>
赤塚会長	<p>文章の問題ではなく、何があるか、当事者がどう参加するのかということがここに書</p>

事務局	<p>かれなければならぬのではないかと？</p> <p>それをお伝えしたくって当事者の方の声を今までと同じように大切にしたいと思ってここは…。</p>
赤塚会長	<p>それから、大切にしていこうということでこれは連絡会議などで私も申し上げたり、参加している当事者の方からご意見あったところだが、自分たちも一緒にやるということがこれからの姿じゃないかというご指摘があって、それは私も事務局会議等でも発言してきている。また、障害者総合支援法の時代になって協議会のあり方が変わった。家族当事者が参加の中に自然に並んでいる。いろんな方が参加していい。あなたたちの声を聞いて私たちが作るではなくて一緒にやる。当事者参加と今まで言ってきたが、これはちょっと弱い。当事者との協働。これからは、当事者との協働という姿勢がないと、いつまでもお話を聞いてとてもお勉強になりました、何とかしなくちゃいけませんねという域から出られない、もう川崎市の地域自立支援協議会は10年目になる。今、これを読み上げられたが、説明がないので、私から申し上げた。北島さんその辺はいかがか？</p>
委員	<p>まさに先生がお話しされたことだと思う。行政がやることだけではなく、何に対しても当事者の声を聞かせてくださいと、実際私たちが挙げたとおりにならないことって多々ある。その時になぜ全ての会議に当事者を含ませて、一緒に会議をしてもらえなかったのか、ずっと一緒に会議をしていくことによって1つずつ形になって、私たちが求めていたことになっていく。先生がお話しされた協働ということが続けていくというか、これからはそうしていかないと、実現していかないと感じる。</p>
赤塚会長	<p>実現しないまでも、一緒にやってここまで来た、次はここと一緒に考えられる。少しその辺を変えませんか？そこに地域自立支援協議会の意味があると思う。委員のみなさまいかがか。私、読み上げるのを聞いていて今回きちんとその辺は来年度こうしますというように入れていただいた方がいいという風に思った。それはちょっと早すぎるのではないとか難しいとか意見があればいただけたらと思う。なければ、そのような方向で2のところは書き直してもらって、全面的に。システムとかネットワークとかあんまり簡単に使ってははいけない。何かできそうな感じがするが、どういうことか具体的にイメージ挙げてくださいというとなかなか出てこない。これから言葉の使い方にしても気をつけなくてははいけない。</p> <p>3番目については、構成員の役割全体会議とか、協議会全体の構成員、これは事務局のことだと思うが、これをどうしたらよいかということ考えた方がいい。併せて、区の協議会についても、同時に考える。市の地域自立支援協議会について、どうするかというテーマの議題についての文章については、併せてということでも構わない。いずれにしても、一年かけて考えていきたいとちょうど10年目で、一つのターニングポイント。一年かけて、もう一度考えていきたい、これがダメじゃなくて、できてないところをみないといけない。できてない、どうしたらよいかを一年かけて事務局を中心に考えていくところが、それについては委員のみなさんは2年間委員をやったのでこれまでの御経験というのを、キチンと踏まえて進めていきたいので、一年間委員を継続してくれませんかということである。一応任期は二年で満了ではある</p>

	<p>が、二年以内と要綱にある。二年継続いただく人もいるかもしれない。とりあえず一年は継続してほしい。こども部会はなくなり終了となるが。他の委員の方達、いかがか。また、所属が変わるとか、色々理由があればそれは考えなければならない。今日、もっと発言したいこともあったと思うが議事がたくさんあった。もう一言ずつくらい話していただきたいと思ったが、時間になってしまったので、終了にしたい。よろしいか。ちゃんと「はい」と言っていたかかないと。</p>
委員	<p>私、途中で受けて、任期一年だったが、障施協の施設長会から行くように言われて出席していて、60歳定年で施設長会を抜けるので、今回、挨拶してこいと言われたところ。</p>
赤塚会長	<p>御礼申し上げます。その他の方は特になければ継続ということでよろしいか。任期の継続につきましては、改めてご依頼をさせていただきたい。</p> <p>みなさまから了解の確認が得られたので終了にしたい。協議できるだけの余裕を持って資料情報等は、提案提起していただき、このような会議を待たなくても、このことについては全体会議の委員に分かっておいてもらいたいということは逐一お示しするということが大事。そのことも書いておいていただきたい、最後のところに。大事なことである。閉会とする。</p>

**8 事務連絡** 特になし

**9 閉会** (閉会あいさつ) 事務局 松澤

以上